

人口減少や高齢化が進むなかで、中山間地域や離島などでの医療提供体制の確保が重要となっています。医師や看護師など医療従事者不足、医療資源が限られた環境下において、地域住民の命を守るために、より効率的で持続可能なへき地医療の実現に向け、世羅中央病院がおこなっている取り組みについて報告します。

公立世羅中央病院におけるへき地医療への取り組み

—— 地域住民の健康と生活を守る中核病院の使命 ——

広島県本部／世羅中央病院職員労働組合 杉原 健太

1. はじめに

日本では人口減少や高齢化の進行に伴い、特に中山間地域や離島などのいわゆる「へき地」において医療提供体制の確保が重要な課題となっています。医療機関が少なく、医師不足や交通事情などの問題が重なる地域では、住民が必要な医療を受けることが難しい状況が生じやすくなっています。そのため地域の中核病院が中心となり、地域全体の医療を支える体制を整えることが求められています。

世羅中央病院は、こうした中山間地域医療を支える重要な役割を担っています。世羅町および周辺地域は人口密度が低く、高齢化率も高い地域であり、医療資源が都市部と比べて限られています。そのため当院は、地域住民の健康と生活を守るため、救急医療、巡回診療、地域連携など多方面からへき地医療に取り組んでいます。

2. 地域の医療を支える中核病院としての役割

世羅中央病院は、広島県東部の尾三医療圏に属する地域の基幹病院として、世羅町を中心に周辺地域の医療を担っています。病床数155床で、内科、外科、整形外科、脳神経外科、小児科、産婦人科、リハビリテーション科など幅広い診療科を有しています。地域の中規模総合病院として、多様な医療ニーズに対応しています。

当院は「質の高い医療を提供し地域を守る」という理念のもと、地域住民が安心して医療を受けられる体制づくりをめざしています。また、365日24時間体制での救急医療の確保や、地域医療機関・福祉施設との連携を重視し、地域包括ケアの推進にも取り組んでいます。さらに、世羅町および三原市の一部地域などの中山間地域の医療を支える役割を担っており、地域の医療拠点としての責任は非常に大きいと考えています。



＜広島県と世羅町の位置関係＞



＜公立世羅中央病院の外観＞

3. へき地医療拠点病院としての指定

世羅中央病院は、広島県から「へき地医療拠点病院」に指定されています。この制度は、医療機関が少ない地域の医療を確保するために、巡回診療や医療支援などを担う拠点となる病院を指定するものであり、へき地医療拠点病院には以下のような役割が求められています。

- ・無医地区などへの巡回診療
- ・へき地診療所への医師派遣
- ・医療従事者への研修
- ・地域医療機関との連携
- ・へき地医療体制の支援

これらの活動を通じて、医療資源が限られた地域でも一定水準の医療が提供できるよう体制を整えることが目的です。当院は、この制度のもとで広島県内のへき地医療を支える重要な役割を担っています。

4. 巡回診療による医療アクセスの確保

へき地医療の大きな課題の一つは、医療機関までの距離があるということです。山間部や交通の不便な地域では、医療機関が近くにない「医療空白地域」が存在し高齢者が病院に通院することが困難な場合があります。そのため当院では移動診療車を活用した巡回診療を実施しています。移動診療車には診察スペース、基本的な医療機器や検査機器、電子カルテなどの医療情報機器を整えています。

周辺地域で医療機関が不足している三原市大和町の複数地区や世羅西地区に、医療スタッフが移動診療車で定期的に訪問し、診察や健康管理を行っています。この巡回診療は週1回程度（内科と整形外科の隔週）の頻度で実施されており、地域住民にとって重要な医療サービスとなっています。巡回診療では、次のような内容の診療が行われています。

- ① 内科診療として、高血圧・糖尿病・脂質異常症・風邪等の一般内科疾患など
- ② 慢性疾患の継続治療として心臓病、高血圧、喘息等の呼吸器疾患など
- ③ 健康相談として血圧測定、血液検査、体調相談など
- ④ 必要時の病院紹介など

また巡回診療のメリットとして、高齢者や交通手段のない住民でも医療を受けられる、病気の早期発見・早期治療が可能、医療スタッフが地域の生活環境を理解できる、地域住民との信頼関係が築けるなどが挙げられます。整形外科が診察の週ではオンラインで内科の診察もおこなっています。さらに2026年5月より三原市の病院の精神科医師によるオンライン診療も開始しました。

このような取り組みにより、医療空白地域をできる限り減らし、住民が安心して生活できる地域づくりに貢献しています。



<実際に使用している巡回診療車>

巡回診療のご案内

この度、公立世羅中央病院では、三原市大和町の無医地区（蔵・蔵宗・上草井・下草井）の方で、通院が困難な方に必要な医療を提供できるよう巡回診療を行う事になりました。

巡回診療を始めるにあたり、ご案内申し上げます。



【公立世羅中央病院の巡回診療の内容】

※診療を受けるには事前の予約が必要です。

対象者：公立世羅中央病院がかかりつけ医の方

診療日：毎週水曜日

診療方法：巡回診療車が各地区の決められた場所へ伺い診療を行います。

訪問地区：大和町蔵・蔵宗・上草井・下草井

診療場所と時間：蔵地区…蔵コミュニティホーム	13:30～14:00
蔵宗地区…蔵宗コミュニティホーム	14:15～14:45
下草井地区…黒谷コミュニティホーム	15:00～15:30
上草井地区…草井公会堂	15:45～16:15

（※時間は診療人数等により、前後する場合があります）

予約時間：8:30～17:00（土・日・祝日・年末年始を除く）

巡回診療受診希望日の前日（火曜日）12:00 までにご予約ください。

（※予約締切日が休日の場合は、診療日の 12:00 まで）

巡回診療のご案内

この度、公立世羅中央病院では、せらにし支所で医療機器等が搭載された専用車両による、巡回診療を行う事になりました。

巡回診療を始めるにあたり、ご案内申し上げます。



【公立世羅中央病院の巡回診療の内容】

※診療を受けるには事前の予約が必要です。

訪問場所：せらにし支所（駐車場）

対象者：公立世羅中央病院がかかりつけ医の方

診療日：毎週金曜日（祝日・年末年始を除く）

診療時間：【予約制】13:30～16:30

【待合場所】せらにし支所ロビー

（※時間は診療人数等により、前後する場合があります）

診療内容：内科又は整形外科の医師による、診察・薬の処方・関節注射・予防接種等

予約受付時間：8:30～17:00（土・日・祝日・年末年始を除く）

巡回診療受診希望日の前日（木曜日）12:00 までにご予約ください。

（※予約締切日が休日の場合は、休日の前日 12:00 まで）

＜住民の方々に配っている巡回診療の案内用紙 左：三原市大和地区 右：世羅西地区＞

5. 地域医療連携の推進

へき地医療を維持するためには、一つの病院だけで医療を完結させるのではなく、地域の診療所や福祉施設との連携が不可欠です。世羅中央病院では、地域医療機関と連携しながら役割分担を行い、効率的な医療提供体制を構築しています。

具体的には次のような取り組みを行っています。

① 診療所との連携

地域の診療所が日常診療を担い、重症患者や入院が必要な患者は受け入れる体制を整えています。

② 福祉施設との連携

高齢者施設や介護施設と連携し、医療と介護の連携を強化しています。

③ 在宅医療の推進

高齢化が進む地域では、通院が難しい患者も増えています。そのため訪問診療や在宅医療の体制づくりにも取り組み、地域包括ケアシステムの構築をめざしています。

このように、地域全体で患者を支える仕組みを整えることこそが、へき地医療の安定的な運営につながっていると考えられます。

6. 救急医療体制の確保

へき地では救急医療の確保も重要な課題です。都市部のように多くの病院が存在しないため、一つの病院が地域の救急医療を担うことが多くなっています。急病や事故などの緊急時に対応できる医療体制の確保は、地域住民の安全と安心を守るうえで非常に重要です。

世羅中央病院は二次救急医療を担う病院として、こうした地域の医療ニーズに応えるため、24時間体制で救急患者の受け入れを行い、地域の救急医療を支えており、救急車によって搬送される患者や入院治療が必要な中等症程度の患者に対応しています。救急患者に対しては迅速な診察と検査を行い、必要に応じて入院治療を行うことで、病状の悪化を防ぎ早期回復につなげています。また、夜間や休日であっても救急患者に対応できる体制を整えており、地域住民が時間帯に関係なく医療を受けられる環境づくりに努めています。

救急医療において幅広い疾患に対応することが可能であり、例えば、発熱や肺炎などの内科的疾患、交通事故や転倒による外傷、骨折などの整形外科的疾患、多様な救急症例に対応しています。また、血液検査や画像検査（X線、CT、MRIなど）を用いて迅速な診断を行い、患者の状態に応じた適切な治療を実施しています。

さらに、地域の医療機関や高度医療機関との連携を通じて、救急医療体制の強化を図っています。中山間地域では一つの病院だけですべての医療を担うことが難しいため、医療機関同士が役割分担を行うことが重要となってきます。当院では、軽症患者については地域の診療所と連携しながら対応し、主に入院を必要とする中等症患者の治療を担っています。また、より高度な医療や専門的な治療が必要と判断された場合には、広島市や福山市、尾道市、三次市などにある三次救急医療機関へ速やかに紹介・搬送する体制を整えています。このような医療連携により、患者の症状に応じた適切な医療を提供することが可能となっています。

加えて、地域の消防機関や救急隊との連携も救急医療体制を支える重要な要素です。救急搬送時には、救急隊から患者の状態に関する情報が搬送前から迅速に共有されることで、病院側も事前に受け入れ準備を整えることができます。これにより、搬送後の診療を円滑に行うことが可能となり、救命率の向上にもつながっていると思われます。



＜救急隊から送られてくる患者情報を確認するためのタブレット端末＞

このように、当院は中山間地域の中核病院として、地域の医療空白時間をできる限り減らすため24時間体制での救急患者の受け入れ、複数診療科による総合的な診療、地域医療機関との連携、さらには救急隊との協力体制を通じて、地域の救急医療体制を支えています。医療資源が限られる地域において、当院の果たす役割は非常に重要であり、地域住民の命を守り、安心して生活するための重要な医療基盤となっています。今後も人口減少や高齢化が進むなかで、地域医療機関との連携をさらに強化し、持続可能な救急医療体制を維持していくことが求められています。

7. 医療人材の確保と育成

へき地医療の大きな課題の一つは、医師や看護師など医療従事者の不足です。都市部と比べて勤務環境や生活環境の面で不利な場合があり、人材確保が難しくなっています。世羅中央病院では次のような取り組みを行っています。

- ① 奨学金制度による人材確保
- ② 教育体制の充実による人材育成
- ③ 働きやすい職場環境の整備

奨学金制度では、看護学生に学費を貸与し、卒業後に一定期間勤務することで返還が免除される仕組みとなっています。これにより地域医療を担う人材の確保を図っています。

また、医療スタッフの教育や研修を通じて、地域医療に必要な総合的な医療能力の向上にも取り組んでいます。さらに、未就業の看護職有資格者で病院等への就業を希望する人が安心して復職できるよう、広島県がおこなっている実践研修である看護職員復職支援事業にも協力しており、新採用者と同じようにプリセプターを配置し、相談しながら研修を進めています。

8. 地域住民の生活を支える医療サービス

へき地医療では、単に病気を治療するだけでなく、地域住民の生活を支える視点が重要です。世羅中央病院では、医療と生活支援を結びつけた取り組みも行っています。

その一つが病児保育事業です。病院内で病児保育を実施することで、子どもが病気の際に家庭での保育が困難な場合でも安心して預けることができます。これにより、子育て世帯の就労場所や就労条件、家庭の状況等も様々あるなかで、子育て環境を整備することで生活支援にも貢献しています。この事業は2024年4月より世羅町が事業実施主体となり当院に事業を委託する形でスタートすることとなりました。

このような取り組みは、地域住民が安心して暮らせる環境づくりにもつながっています。



＜実際の病児保育の様子＞

9. 今後の課題と展望

人口減少や都市部への人口集中が進む日本では、地域医療やへき地医療の維持が大きな社会課題となっています。特に中山間地域や過疎地域では、医療機関の減少や医療従事者の不足、交通手段の制限などが重なり、住民が必要な医療を受けることが難しい状況が生じています。こうした状況のなかで、地域医療やへき地医療のあり方については、重要な課題と今後の展望が指摘されています。

まず大きな課題として挙げられるのが、医療従事者の確保です。都市部に比べて地方では医師や看護師の数が少なく、勤務環境や生活環境の面から人材確保が難しい傾向があります。特にへき地では医師が少人数で幅広い診療を担う必要があり、負担が大きくなっています。そのため、医学生や若手医師が地域医療に関心を持ち、地域で働き続ける仕組みづくりが重要となってきます。具体的には、地域枠制度による医師の育成、研修体制の充実、働きやすい勤務環境の整備などが求められています。

次に、人口減少による医療需要の変化も大きな課題です。人口が減少する地域では患者数が減り、病院経営が厳しくなる傾向にあります。一方で、高齢化の進行により慢性疾患や介護を必要とする高齢者は増加するため、医療の内容や提供方法を見直す必要があります。従来の「病院中心の医療」だけでなく、在宅医療や訪問診療、訪問看護などを組み合わせた地域包括ケアの推進が重要となってきます。医療と介護、福祉が連携し、地域全体で高齢者の生活を支える体制を整えることが求められています。

また、医療機関へのアクセスの問題もへき地医療の大きな課題です。巡回診療や移動診療車の活用、さらには遠隔医療の導入など、患者が医療にアクセスしやすい仕組みを整えることが必要です。近年ではICT技術の発展により、オンライン診療や医療情報の共有が進みつつあり、へき地医療を支える新しい手段として期待されています。

さらに、地域住民の理解と協力も重要な要素のひとつです。地域医療は医療機関だけで維持できるものではなく、行政や住民、福祉施設など地域全体が協力して支える必要があります。住民が地域の医療体制を理解し、適切な受診行動をとることや、地域の医療機関を支える意識を持つことも重要です。地域医療を守るためには、「地域で支える医療」という視点が欠かせないと思われます。

今後の展望として、医療機関同士の役割分担や広域的な医療連携の強化が挙げられます。すべての医療機能を一つの病院で担うのではなく、地域の診療所や中核病院、専門病院が連携しながら役割を分担することで、効率的で持続可能な医療体制を構築することができます。また、ICTや遠隔医療の活

用、人材育成の強化、地域包括ケアの推進などを通じて、人口減少社会に適応した新しい地域医療のモデルを構築していくことが重要です。

このように、人口減少や人口集中が進む社会において地域医療やへき地医療を維持するためには、多くの課題を克服する必要があります。しかし、医療機関、行政、地域住民が協力し、医療提供の方法を柔軟に見直していくことで、将来にわたって地域住民が安心して暮らせる医療体制を築くことが可能です。地域の実情に応じた持続可能な医療体制の構築こそが、今後の地域医療の重要な方向性であると考えます。

10. まとめ

世羅中央病院は中山間地域における中核病院として、さまざまな取り組みを通じてへき地医療を支えています。巡回診療による医療アクセスの確保、地域医療機関や福祉施設との連携の強化、24時間体制の救急医療の提供、人材確保と育成など、多方面から地域医療の維持に取り組んでいます。特に医療資源が限られる地域においては、一つの医療機関だけで完結する医療ではなく、地域全体で患者を支える仕組みづくりが重要であり、当院はその中心的な役割を担っています。

また、人口減少や高齢化が進むなかで、地域医療のあり方も大きく変化しています。今後は巡回診療や在宅医療の充実、医療機関同士の連携強化、ICTや遠隔医療の活用などを通じて、より効率的で持続可能な医療体制を構築していくことが求められます。地域住民が安心して暮らし続けるためには、医療機関だけでなく行政や地域社会が一体となって地域医療を支えていくことが不可欠です。

当院の取り組みは、今後のへき地医療のモデルの一つとして重要な役割を果たしており、地域の実情に応じた医療提供体制を築くことの大切さを示しているといえます。今後も地域に根ざした医療活動を継続しながら、住民が住み慣れた地域で安心して暮らし続けることのできる社会の実現を目指し、将来にわたって貢献し続けます。